

一言ご挨拶を申し上げます。

本日、萩・石見空港が開港20周年を迎え、記念式典を開催できますことを大変うれしく思います。

全日本空輸株式会社をはじめ、空港関係機関や「萩・石見空港利用拡大促進協議会」の皆様には、空港の運営や利用促進にあたり、長年にわたってご理解とご協力をいただき、心から感謝申し上げます。

また、ご多忙の中、このように多くの皆様にご臨席を賜り誠にありがとうございます。

さて、萩・石見空港は、平成5年に、2000m滑走路を有する中型ジェット機が就航可能な空港として開港し、羽田と伊丹への定期便が就航いたしました。

平成14年には、萩・津和野など多数の観光地の玄関口としてふさわしいよう、愛称を「萩・石見空港」といたしました。

高速交通網の整備が遅れている石見地域、山口県北東部にとって、大都市圏との間を短時間で結ぶ航空路線は、観光や産業の振興、定住促進など、地域の自立と発展に大変重要な役割を担っています。

関係機関の皆様のご尽力により、東京便の乗客数が平成23、24年度と2年連続で6万人を超えるなど、開港以来、これまでに220万人以上の方々にご利用いただきました。

また、昨年12月に開港した岩国錦帯橋空港と組み合わせたツアー商品が好調であります。県と益田市と共同して利用促進に取り組んでおり、このところ東京便の乗客数は増加傾向にあります。

今後とも、萩・石見空港がより多くの皆様方に愛され利用されますよう、安全・安心な航空路の提供や路線の維持発展に努力してまいります。皆様には、今後ともご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

終わりに、本日お集まりの皆様のご健勝と空港の発展を祈念いたしまして、ご挨拶といたします。